

いわき 農林水産 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和8年 4月号 Vol.254

発行日 2026/4/30

- 01 所長3人のあいさつ
- 03 各種取組の実績（3～4月分）
- 05 トピック
【お知らせください】ナガエツルノゲイトウを見かけたら
- 06 お知らせ
- 06 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（3月）
- 06 いわき地方の出荷制限等品目
- 07 山菜等の出荷制限について
- 08 ならではグルメをつくろう レシピ紹介
- 09 「まちメディア」5月号 掲載記事
- 09 転入者一覧
- 10 新規採用職員から一言
- 11 あとがき

所長3人のあいさつ

いわき農林事務所長

このたび、令和8年4月1日付け定期人事異動でいわき農林事務所長に着任しました酒井 雄二（さかい ゆうじ）と申します。いわき地方の農林業者の皆さまをはじめ、関係機関・団体の皆さまにおかれましては、日頃から地域の農林業振興にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

県では、時代に即した農林水産業・農山漁村の振興施策を進めていくため、食料・農業・農村基本法や福島県農業・農村振興条例の改正等を考慮して「福島県農林水産業振興計画」を令和8年2月に改正し、「『もうかる』『誇れる』共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村」を基本方針に掲げております。

当所では、「東日本大震災及び原子力災害からの復興」、「持続的な発展を支える生産基盤の整備と担い手の確保」、「地域の特性をいかした安全・安心な農林水産物の供給」、「地域の特性をいかした農山漁村の形成」の4つの振興方向を目指し、各種施策を展開しております。

さて、令和5年度に策定した「いわき・ねぎならではプラン」により、いわきねぎの高付加価値化・生産力強化を図るブランド化に取り組んでおり、令和7年11月に、選果作業の負担軽減や品質の均一化による販売額の向上を目的として、いわき長ねぎ選果調整施設が稼働しました。引き続き、栽培技術等の向上に向けた取組を支援し、産地の強化・拡大を進めてまいります。ほ場整備事業においては、現在、神谷第二地区と瀬戸地区で区画整理工事を実施しております。地域計画の実現に向けて整備地区での高収益作物導入を推進して営農体制の強化を進めてまいります。林道等路網整備においては、着工から21年の長きにわたり開設工事を進めてきた「永井川前線」が令和7年10月に全線開通しました。森林整備の促進や三和・川前地域間のアクセス向上など、生活環境の改善に寄与するものと考えられます。

その他にも、いわき市やJAと連携した担い手の確保、日照時間が長く冬でも温暖な気候を活かした「トマト」「いちご」「梨」などの園芸品目の生産拡大、「栽培きのこ」の生産振興、6次化商品の開発、スマート林業の構築、主伐・再造林、水害リスクの増大に備える「流域治水プロジェクト」に基づく「田んぼダム」や「森林整備」など、様々な取組を進めてまいります。

結びに、当所の目標とする「『サンシャインいわき』笑顔あふれる農林水産業の未来を目指して」関係機関と連携を図りながら、職員一同、現場主義を貫き取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。どうぞ、よろしくお願いいたします。





水産事務所長

このたび、令和8年4月1日付け定期人事異動で福島県水産事務所長に着任しました渋谷 武久（しづや たけひさ）と申します。

水産事務所での勤務は令和5年以来3年ぶりとなり、新たな気持ちでのスタートとなりました。

さて、福島県の沿岸漁業は、本格操業へ向けた移行期間に入り5年目を迎えました。水産業関係者が、がんばる漁業復興支援事業や資源管理、県産水産物の流通拡大などに積極的に取り組んだ結果、着実に水揚げを伸ばし、令和7年の沿岸漁業の水揚げ量は7,212トンと東日本大震災以降最多を更新しました。こうした状況の中、令和6年度の本県沿岸漁業への新規就業者数は27人で、東日本大震災以降最多だった令和5年度の26人を1人上回るなど明るい話題も増えてきております。

水産事務所では、これまでに引き続き、水産業の復興に向け、県産水産物の安全性、「常盤もの」の魅力に関する情報を発信するとともに、生産・流通拡大の取組や、漁業担い手の確保、漁協の運営等の支援をまいりますので、何卒よろしくお願いたします。



水産海洋研究センター所長

昨年度に引き続き水産海洋研究センター所長を務めます、山廻邊 昭文（やまのべ あきぶみ）です。いわき地方をはじめ県内の水産業関係者、関係団体の皆さまには、日頃より当センターの調査・研究にご協力いただき感謝申し上げます。

さて、本県の水産業は未だ復興途中にあり、漁業者団体は最重要課題である水揚量の回復に向けて課題解決に取り組んでいるところです。一方で、近年は気候変動の影響により福島県沖の水温が異常に高い状態が続き、漁業資源や漁場にも変化等が確認されていました。昨年は、その要因ともなった長期にわたる黒潮の大蛇行が終息し、新たな変化の兆しが見られているところです。

当センターは試験研究機関として、本県漁業がこのような変化に対して的確に対応できるよう、漁獲物調査、調査船による環境・資源調査等による成果の迅速な発信や、漁業現場へのICT技術導入の支援などに取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。





第2回「いわき・ねぎならではプラン」産地ワーキンググループ 3月16日(月)

いわき地方では、令和6年度から3年間の計画「いわき・ねぎならではプラン」に基づき、ねぎの生産拡大とブランド力強化に取り組んでいます。

令和7年度は、各種指導会や新規栽培者向け研修会を開催するとともに、市内量販店において、いわき産ねぎの付加価値向上に向けたアンケート調査を実施しました。

これらの取組を踏まえ、3月16日に第2回「いわき・ねぎならではプラン」産地ワーキンググループを開催し、関係機関が実施状況や成果を共有するとともに、今後の方向性について意見交換を行いました。

令和8年度も、産地化に向けて関係機関が連携し、「いわき・ねぎ」の振興に向けた取組を進めてまいります。

(農業振興普及部)



▲ワーキンググループの様子

株式会社木環の杜四倉工場開業式

3月24日(火)

株式会社木環の杜（こわのもり）四倉工場の開業式が四倉町の四倉工場敷地内で開催され、関係者約100名が出席しました。

株式会社木環の杜は令和5年11月に設立され、これまでは湯本工場で集成材の製造を行っていましたが、令和8年3月24日より四倉工場においてディメンション材（構造材）の製造を新たに開始することとなりました。

四倉工場では、地域材を中心に製材・加工を行うことで、地域の林業事業者・市場等と共に森林の循環利用と木材市場の活性化を図っていききたいとのことです。

開業式では、木環の杜の安永代表取締役と住友林業の光吉代表取締役の挨拶及び来賓による祝辞の後、テープカットにより開業をお祝いしました。また、式の後は来場者や報道関係者を対象に工場見学会が開催され、全自動で原木を製材して加工する様子が公開されました。

(森林林業部)



▲安永代表取締役挨拶



▲テープカットの様子



いわき地方防霜対策本部を設置

3月25日(水)

春先に発生する晩霜への対策のために、いわき地方防霜対策本部を設置しました。(設置期間：令和8年3月25日～5月31日)

設置に先立ち、県いわき合同庁舎において管内の関係機関・団体を参集し、いわき地方農業災害対策会議を開催しました。会議では、令和7年度の農業気象災害の発生状況や令和8年度における災害発生時の体制のほか、日本なしの生育状況を確認しました。

今年の日本なしの生育は、3月24日に「豊水」の発芽が確認されるなど、平年より3日程度進んでいます。昨年同様に3月下旬以降の遅霜による被害に警戒する必要があります。

霜注意報の発令時には、速やかな情報伝達、翌日は降霜の有無や農作物への被害状況を確認するとともに、被害発生時には適切な技術対策を講じてまいります。

今年も農業災害のない1年を祈るとともに、発生時には皆さまの御協力を受けながら、迅速に対応してまいります。

(農業振興普及部)



▲いわき地方防霜対策本部 看板設置
(左：上野前所長、右：荻野部長)

森林保全巡視員辞令交付式

4月1日(水)

令和8年度福島県森林保全巡視員辞令交付式を県いわき合同庁舎で開催し、いわき管内の森林保全巡視員8名に対し辞令を交付しました。

交付式終了後、いわき地方森林パトロール協議会を開催し、巡視活動を円滑に進められるよう、連絡体制の確認やいわき市役所など関係機関との意見交換を行いました。

8名の森林保全巡視員には、今後1年間、各担当方部の保安林や県営林内の巡視活動のほか、入山者に対する山火事予防の普及啓発活動などを担っていただく予定です。

(森林林業部)



▲辞令交付式の様子



▲協議会の様子

1 ナガエツルノゲイトウをご存じですか

ナガエツルノゲイトウとは、特定外来生物に指定されている南米原産の多年草です。いわき市では令和6年6月に初めて発生が確認されました。本種は非常に増殖しやすく、生態系や農業に悪影響を及ぼすおそれがあります。

2 ナガエツルノゲイトウの生態

本種は河川、水路、ため池、水田、あぜなどのほか、乾燥に強いため畑でも生育します。開花時期は4月～10月で、種子をつけず茎や根で増殖します。茎は再生力が強く、数センチの断片からでも発根します。また茎は千切れやすく水に浮くため、断片が用水・河川を介して運ばれることで新たな地に定着し再生する特徴があります。根は土中で50cm以上伸び、刈り取っても根断面から再生します。



▲開花しているナガエツルノゲイトウ

【形態】

節から一対の葉が付き、葉の長さは2.5～5 cm、幅は0.7～2 cmで先端はややとがる。茎はなめらかで節に短い毛が生え、中は空洞となっている。花と茎をつなぐ柄(え)があり、長さは1～4 cmほどである。柄の先に小さな花を球状につける。

3 作物への影響

ナガエツルノゲイトウは、その増殖しやすい特徴から、農作物等と競合して収穫量を減少させるほか、農業機械の作業性の低下を引き起こします。

また河川や池で大群落となり水面をマット状に覆うことで、水路を塞ぎ、取水・排水の障害になることがあります。



▲水稲に絡みつきながら生育するナガエツルノゲイトウ

4 ナガエツルノゲイトウを見かけたら

いわきでナガエツルノゲイトウの発生が疑われる場合や、ナガエツルノゲイトウの防除に関することについては、いわき農林事務所 農業振興普及部までご連絡ください。

いわき農林事務所 農業振興普及部 ☎ 0246-24-6161

(企画部・農業振興普及部)



いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和8年3月分）

□農林畜産物の検査結果

令和8年3月の農林畜産物モニタリングでは、3品目3検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。

（表1）品目と検体数

ふきのとう（野生）1、牛肉1、原乳1

□海産魚介類の検査結果

令和8年3月の水産物モニタリング検査では、70検体の海産魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

いわき地方の出荷制限等品目

令和8年3月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は（表2）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

（表2）農林畜水産物の出荷制限等品目（令和8年3月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※1、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ※2
自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※1 わらび（栽培）で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限り、（市内該当生産者23名のみ）

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。



山菜等の出荷制限について

山菜が発生する時期を迎えましたが、いわき市においては、山菜の一部が出荷制限等の対象となっており、採取者や直売所担当者の皆さまにおかれましては、次の点に留意するようお願いします。

1 出荷制限について

現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は、6ページ（表2）のとおりです。これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。そのため、

- 団体や個人が実施した自主検査により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷や販売等はできません。
- 無償の譲渡や、インターネット（フリマアプリ等）による個人売買も出荷に該当するため、できません。
- 出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用できません。

なお、出荷制限等品目は市町村ごとに定められていますので、他の市町村の状況は県HP「ふくしま復興ステーション」（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/mon-kekka.html>）で確認してください。

2 出荷制限等品目以外の山菜について

県において緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査結果を確認のうえ出荷・販売するようお願いします。モニタリング検査の結果は、県HP「ふくしま復興ステーション」で公表されます。



3 栽培きのこについて

「原木なめこ（露地）」以外の栽培きのこは、栽培前に生産資材（きのこ原木、ほだ木、菌床等）の安全性の確認を県の検査機関において実施します。国が定める当面の指標値（きのこ原木・ほだ木50Bq/kg、菌床200Bq/kg）以下で安全性が確認できた生産資材のみ、販売目的のきのこ栽培に使用することができます。

また、発生したきのこは、出荷・販売前に県によるモニタリング検査を受ける必要がありますので、きのこ栽培の開始・再開を検討されている場合は、森林林業部（[TEL 0246-24-6193](tel:0246-24-6193)）までお問合せください。

（森林林業部）



高校生発！Iwakiならではのグルメをつくろう レシピ紹介

地元農産物の魅力を発信するため、市内の高校生と飲食店等が共同でいわきならではのグルメを開発する、「高校生発！Iwakiならではのグルメをつくろう」。

今回は令和7年度に応募があったレシピの中から、「まんまるトマトのビーフシチューパイ」をご紹介します！

Recipe
No. 01

まんまるトマトの ビーフシチューパイ



考案者：福島県立小名浜海星高等学校 1年 吉田 悠萌（よしだ ゆめ）さん

レシピ集はこちら！



材 料（2人分）

トマト	2個
にんじん	1本
牛肉	170g
玉ねぎ	1玉
ビーフシチューの素	4片
パイ生地(冷凍)	
卵黄	1個分
パセリ	適量
水	適量
油	適量

つくりかた

- ① トマトとにんじんを角切りにする
- ② 耐熱容器に①と水を入れ、ラップをしてからレンジで600W5分温める。
- ③ 玉ねぎをくし切りにし、熱したフライパンであめ色になるまで炒める。
- ④ ③に油と牛肉を入れてさらに炒める。
- ⑤ ④に②のにんじんと水を加え、ビーフシチューの素を入れて溶かす。
素がとけたら、②のトマトを加えて煮込む。
- ⑥ 冷凍のパイ生地を5分ほど自然解凍しておく。
解凍したパイ生地を丸く切り取り、5枚作る。
5枚のうち4枚は、内側をさらに小さめの○で切り抜いておく。
- ⑦ 穴をあけていない生地を一番下にして5枚重ね、一番上の生地に卵黄を塗る。
- ⑧ 予熱なしのオーブンで、200℃で25分焼く。
- ⑨ ⑧をお皿に置き、⑤のビーフシチューをパイ生地の中に入れて、パセリを散らして完成。

調理時間：60分

comment

トマトを煮込むことで甘みが出て、トマトが好きな人は更においしく！
苦手な人でも気にせずおいしく食べてもらえる工夫をしました！
パイ生地を丸くすることで見た目もかわいくなりました。

レシピを参考に
作ってみました！

甘いパイ生地とトマトの酸味が最高の組み合わせでした。

トマトを大きめにカットしたことで触感が残り美味しく食べることができました。（担当 S.M）



「まちメディア」5月号 掲載記事

いわきのフリーマガジン「まち・メディア」に掲載している当所の記事をご紹介します。今回は5月号に掲載した、いわきの春トマト「うらら～ulala～」についてです！

福島県いわき農林事務所

いわきの春トマト
「うらら～ulala～」
を紹介します！



いわき市内の3つのブランドトマト「サンシャイントマト」・「親バカトマト」・「小名浜菜園ミニトマト」を生産している9農園から、その垣根を越えて、春トマトの「うらら～ulala～」として、3～5月にかけて出荷されています。

トマトは通常夏が旬の野菜ですが、いわき市では冬季の温暖な気候を活かしたハウス栽培が盛んで、冬から春にかけて収穫量が最盛期を迎えます。春の豊富な日照と昼夜の寒暖差により、ゆっくりと育つことで、糖度が高く味が濃い、美味しいトマトが出来上がります。

いわきの恵まれた気候を活かし、生産者の皆様が手間をかけて一生懸命栽培した美味しい春トマト「うらら～ulala～。皆様も是非お召し上がりください。



サディ農園
園主 根本 一仁氏
いわき市小川町

- 就農5年目の若手生産者。錦町のベテラントマト農家の助川農園での研修後、いわきのブランドトマト「親バカトマト」の生産を開始。
- 美味しいトマトが作れるよう、土づくりや栽培管理にこだわっています。
- マルトやヨークベニマル等で販売。また、様々なレストランにも使ってもらっています！



春トマト「うらら」の詳細はコチラ！



春トマト「うらら」は
こんなお店で買えます！

- マルト 各店舗
- ヨークベニマル 各店舗



転入者一覧

（いわき農林事務所）

部名	職名	名字
	所長	酒井
総務部	主査	菅野
企画部	主事	彌勒地
	主事	大高
農業振興普及部	副部長	木幡
	農業振興課長	木村
	技師	生亀
	技師	中村
	技師	出澤

（水産事務所）

部名	職名	名字
	所長	渋谷
	主幹兼次長（総務）兼 総務課長	服部
	主幹兼次長（業務）兼 漁業振興課長	佐藤
福島海区漁業調整委員会事務局	海区委員会事務局主幹兼次長（業務）	根本
漁業振興課	主任主査	島村
漁業振興課	副主査	坂本
漁業振興課	主事	二階堂

（水産海洋研究センター）

部名	職名	氏名
	副所長兼海洋漁業部長	神山
事務部	主事	大橋
海洋漁業部	主任研究員	鈴木
海洋漁業部	研究員	上田

部名	職名	名字
農村整備部	部長	根本
	農村整備課長	矢吹
	農村整備課主任主査	服部
	主査	穴戸
	技師	阿部
森林林業部	部長	阿部
	副部長	橋本
	林業課長	菅野
	森林土木課長	渋谷
	副主査	佐藤
	技師	齋藤
	技師	長尾
	専門員	富樫



新規採用職員から一言

4月から配属となった新規採用職員の皆様から一言をいただきました。

いわき農林事務所
企画部 地域農林企画課
大高主事

企画部に配属となりました大高です。いわき市での生活は初めてで仕事もわからないことばかりですが、穏やかな気候とあたたかい雰囲気によって日々元気をいただいています。

先輩方や地域の皆様から学び、実践できることは実践しながら、一日でも早くお役に立てるよう励んでまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

いわき農林事務所
農業振興普及部 地域農業推進課
出澤技師

このたび農業振興普及部に配属となりました出澤です。県外出身ではありますが、ご縁があり、この度農業普及の現場で働かせていただくことになりました。

生産者の方々の声にしっかり耳を傾け、職員の先輩方から学びながら、いち早く業務をこなせるよう精一杯頑張っております。よろしくお願いいたします。

いわき農林事務所
農村整備部 農村整備課
阿部技師

農村整備部に所属されました。阿部です。福島市出身で昨年度まで秋田県に住んでおりました。いわき市は暖かくとても住みやすい場所だと感じております。

一日でも早く仕事を覚え、皆様のお役に立てられるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

いわき農林事務所
森林林業部 森林土木課
長尾技師

森林林業部に配属された長尾です。先日までずっと郡山に住んでいたためいわきでの生活に不安を抱えていたのですが、とても良い環境の中快適に過ごさせていただいています。

森林に関しては素人同然であるためしばらくは先輩方に助けていただく機会が多々あるとは思いますが、いち早く成長を遂げお役に立てるよう邁進していく所存です。これからよろしくお願いいたします。

水産事務所
漁業振興課
二階堂主事

このたび水産事務所に配属されました二階堂です。私は福島市出身でいわき市での生活は初めてになります。

慣れないことが多いですが、一日でも早く仕事を覚えて皆様に貢献できるよう励んでまいります。よろしくお願いいたします。

水産海洋研究センター
海洋漁業部
上田研究員

水産海洋研究センターに配属となりました上田です。いわき市に配属となり毎日海を眺めることができとても幸せな気持ちです。

3月まで北海道にいたため、今から夏の暑さに怯えています。秋の美味しい物に思いを馳せて乗り切ろうと思います。

諸先輩方から学ばせていただき、いち早く福島県に貢献できるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。

今月号に掲載した場所はこちら！

①株式会社木環の杜四倉工場 (P3)
四倉町字栗木作192-1

②サディ農園 (P9)
小川町下小川広畑232

いわき市
MAP



あとがき



あとがき

今年の4月は平年よりも暖かく感じられましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。当所は新たなメンバーを迎え、新年度が始まりました。

さて、今月号のタイトルにある桜の写真は、県合同庁舎沿いを流れる新川の河川敷で撮影したものです。私は通勤中にこの桜を見てお花見気分には浸っていました。現在、桜の見頃は過ぎてしまいましたが、新緑のまぶしい季節が到来しましたね。

最後に、いわき農林水産ニュースでは、今年度もいわきの農林水産業に関する情報を幅広くお伝えしてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。(担当 S.M)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース